

牛のぼやき

画 ユーシャ

オラは人間に飼われていた
遠い昔のことだ

牧場の人は 皆やさしかった
でも 今は 誰もいない

ある春の夜
兵隊たちがやって来ると
牧場をはさんで 激しく銃を撃ち合
つて

みんな死んでしまった
牧場の人も 二人の子どもを残し
戦争のトバッチリを食らわされて
死んだ

怪我して腹をすかせた子どもたちに
オラの女房が乳をやった
でも三日目に 怪我が元で
二人とも死んでしまった

それから三月ほどたった頃
高い空の上を でっかい流れ星が
昼も夜も
幾つもいくつも
流れていくのが見えた
オラと女房は
いったいアレは何かねと
話したもんだ

今 考えてみると それが
女房と静かに言葉を交わした 最
後だった

それから暫くして
全身焼け爛れた 人間らしきものが
大勢やってくると
女房を殺して貪り食って 去って行
った

オラが離れた丘の上に
昼寝に行っていた その間のことだっ
た

女房がいた草むらには
骨と毛と皮しか残っていなかった



アレから二年になる
人間にはそれっきり
出会っていないな

子どもが死んだ場所に

小さな花が咲いた

また 春が巡って来たってわけさ

暖かくなってきたお陰で

女房や 花紫の花になった子どもたち

思い出されて仕方ない

オラは この生まれ故郷を捨てて

朝日が昇る東の方へ 行ってみようと
考えた

東に行くと 朝日とともに

また、新しい日が来るのではないか

そう 思ったただけだ

ここにいたって 過ぎた昔を 思い出
すだけだ

寂しがったって

死んじまったものは 生き返らない

それくらいのは オラにもわかる

オラは牛だ

遠い道のりを ゆっくり歩くのは 得意だ

あせっても しょうがない

のっそり のっそり 行くしかないさ

のっそり のっそり と な

【一言】

二〇〇二年六月「日本WEB詩人会」が開催した「画詩でぼえ」に準優勝した作品です。

知人に早速連絡したのですが、メルは出来ても詩人会のホームページで作品に辿り着けない人が多かったので、ここに改めて掲載しました。

この作品を「反戦」という人もいますが、私は「平和って何だろう？」と考えてもらえれば、ありがたいと思います。